

【取組内容】



- 「6億人に水を届ける」ことを目標に、ドイツのスタートアップ企業と提携し、**貧困層や経済・社会システムの脆弱な地域で「持続可能性に富む給水のビジネスモデル」を創出。**
- 太陽光発電を用いて浄水装置を運転**し、飲料水をつくり、販売する施設「WaterKiosk®」を、ケニア・マチャコスの障害を持つ子どもたちの学校の敷地内に開設。
- つくられた飲料水は、学校には無償で提供し、**余剰水を地域コミュニティに有償で販売することで**、運営費及び将来のメンテナンス費用を賄い、**自立したビジネスとして運営できる持続性の高い仕組みを実現**。更に飲料用以外の水は学校の敷地内で魚の養殖や野菜栽培に利用し、育った魚や野菜は学校給食として提供。

【評価ポイント】

- 日本の水資源工学の優位性を途上国の現場に効果的に提供。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性	「持続可能性に富む給水のビジネスモデル」は、他国・他地域にも普及可能。
包摂性	安全できれいな水は、人種・性別・国籍を問わず誰もが必要なものであり、「誰一人取り残さない」理念を体现。
参画型	ビジネスとしての持続可能性を確保できる飲料水の销售价格設定において、販売員、教師、保護者等の意見も取り入れている。
統合性	価格設定、再エネ利用、効率的な水資源の活用等、経済・環境・社会に配慮して事業を実施。
透明性と説明責任	ウェブサイト等で活動成果を公開。定期的に総合的評価と個々の課題評価を行い、レジリエントな社会インフラへと改善を続ける。



[動画はこちら](#)

